

いま、時間を「水平の時間」と「垂直の時間」にわけろ。(1)水平の時間とは、時計ではかれる時間で、客観的であり、いわば水平に均質に流れている時間である。誰しもが、同じく持つ共通の時間である。それに対し、垂直の時間とは、心に残る思い出などがそうであり、それらはいつまでも忘れることがないように、流れのない時間、いわば永遠の時間である。水平の時間が、今述べたように客観的、普遍的であるのに対し、垂直の時間は、内なる心が受けた印象や体験であるから、各個人の内なる出来事である。その意味で、これは主観的、特殊的、非合理的である。

水平の時間が流れの「線」であるのに対し、垂直の時間は、線に内在する点であり、その点に拠った垂直である。この垂直の時間を導き入れることによって、時間が重層化し、生活が豊かになる。この時間は、ミヒヤエル・エンデによれば、「光を見るために目が有り、音を聞くために耳があるのと同じように、心で感じなければ」(2)得られない。

たしかに、水平の時間は、日常生活を維持し、秩序を守るために大切である。しかし、この種の時間だけで生活をするならば、換言するならば、時間を感ずる心がないならば、ただ、仕事を事務的、形式的に片づけることになり、「生活は単調化して貧しくなり、画一的となり、日ごとに冷たくなる」(3)というのである。私たちは人間性を促進し、育くむためにも、いたずらに、水平の時間だけをせかせかと過ごす態度を是正し、垂直の時間を導き入れることを考える必要があるのではないか。特に家政学においてこの事を強調したい。

(1) 中村アサ子=郡「人間の時間について」 (2) 「モモ」岩波211ページ (3) 「モモ」岩波95ページ